



**日焼け果多い！
樹上選果を徹底し、高
品質生産を！
台風に伴え、風害防止
対策を万全に！**

農薬の使い方には要注意！

農薬の使用については十分注意すること。
安全使用基準をよく守り、安全性の高い農産物の生産を。

**「9月中旬」の薬剤散布
(中・晩生種対象)**

9月15日頃にストライド顆粒水和剤1,500倍(収穫前日まで)又はオーソサイド水和剤800倍(収穫前日まで)を特別散布すること、すず病対策と同時に黒星病の秋季感染を予防できる。

〈着色手入れ実施時期〉

品種別実施時期は、図に示したとおり。

○中・晩生種の管理

油断すると枝折れの可能性があるため、支柱は早めに多めに入れる。

○摘葉剤(ジョンカラップロ)の注意点

ジョンカラップロは、使用時期が「収穫30日前」であるため、使用基準は守る。

ふじを主体に使用し、目的以外の品種にかからないようにする。散布後30日間は収穫できないので注意する。

除袋時の注意

① 二重袋をかけたものは、日焼けを考慮してまず外袋をはぎ、果実の色が黄色みがあった時、あるいは薄い縞が入った時(晴れた日が3〜5日続いた後)に内袋をはぐ。

② 二重袋の内袋をはぐ場合は、曇天か晴天の日中(10〜14時)に行つた。

③ 外袋をはぐ時は、果実に密着している葉を摘み取る。これは着色ムラを無くし、さらにハマキムシ類の被害を防ぐ上でも重要である。

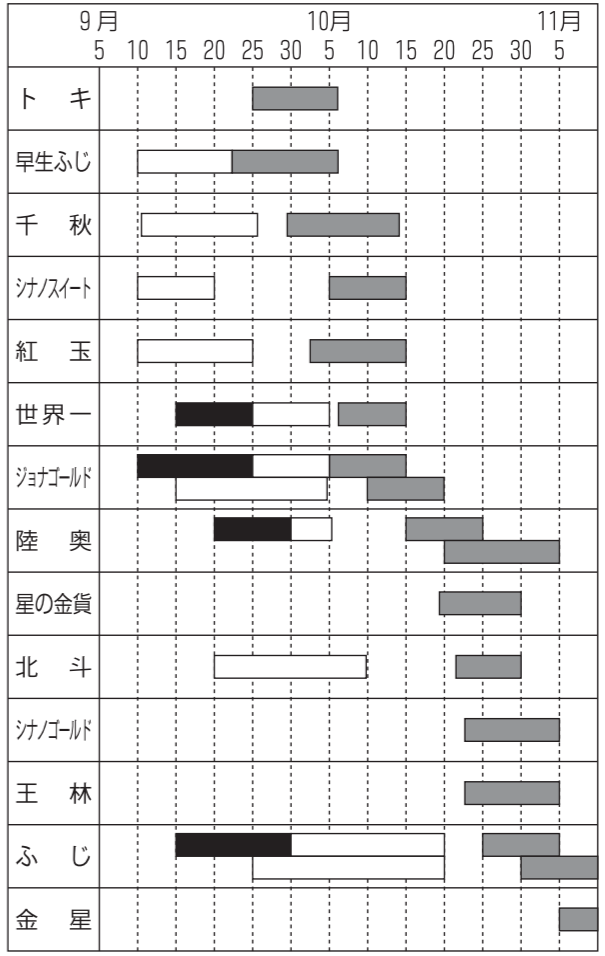
着色管理の進め方

① 葉摘みは初め果実に密着した葉を摘む程度にとどめ、その後数回に分けて果実に日陰を作る葉を摘み取る。有袋栽培では除袋後から行う。
② 支柱の位置を動かしたり、小枝を吊り上げたり、不要な徒長枝を剪去して樹冠の内部に十分日光を入れる。

着色の注意点

① 着色だけを考えて早くから多くの葉を取りすぎると、鮮明な色が出ないばかりか食味を低下させる。
② 着色が進んでも収穫を早くし過ぎないように、特に着色系や反射資材使用の場合に十分注意する。

今年の品質別着色手入れ及び収穫時期(目安)



注) 除袋期(黒) 着色手入れ(白) 収穫時期(黒) 上段:有袋 下段:無袋

台風対策

① 防風ネットの点検
台風襲来の可能性もあるので、ネットの破れ、支柱の腐敗などを点検して

② わい化園の支柱・結束を点検
おき、故障があれば補強しておく。支柱の腐敗、結束ひもの老化などを点検しておき、風圧を少なくするため樹冠上部の徒長枝なども剪去しておく。

りんご産難に注意!



***収穫**

刈り取りが可能な時期に達したら、出来るだけ早い時期に収穫し、刈り遅れによる品質低下を防ぐ。ただし、降雨後や早朝などの水分の高い状態での刈り取りは避けること。

●コンバイン刈りの汚粒対策として、次の事に注意する。
① 雑草やウィルス株は必ず抜き

取る。(特にイヌホオツキによる着色に注意する。)

② 10cm程度の高刈りを行う。

③ 水分18%以下で刈り取る。(サヤを振って、カラカラと音がする。茎を爪で擦っても削れない状態。)

④ コンバインの掃除・点検を行い、土や雑草を噛み込んだ場合には、作業を中止してヘッダ部などの掃除を行う。



水稲

**適期刈りに努め
ましよう!!**

(相談は指導課へ)

***刈取時期**

刈取りが早すぎると未熟粒が多くなり、刈遅れると胴割粒、茶米などの被害粒が増加するため適期刈りに努める。
左の表を参考にほ場の状況を見ながら刈取時期を判断しましょう。

品種(刈)	ほ場(刈)	出穂後の積算気温
青天の霹靂	出穂後の積算気温	900~1,100℃
つがるロマン	出穂後の積算気温	960~1,150℃
まっしぐら	出穂後の積算気温	960~1,200℃
稲の黄化程度	ほ場全体の稲が90%程度黄化した時期	
枝梗の黄化程度	枝梗の2/3程度が黄化した時期	
籾水分	25~26%程度まで減少した時期	

***出穂期後の積算気温でみた刈取適期**

○8月19日以降、平年値で試算
刈取適期(まっしぐら)

出穂期	7/30	8/1	8/3	8/5	8/7
900℃	9/7	9/9	9/12	9/14	9/16
960℃	9/10	9/12	9/15	9/17	9/20
1,100℃	9/17	9/20	9/22	9/25	9/27
1,150℃	9/19	9/22	9/25	9/28	9/30
1,200℃	9/22	9/25	9/28	10/1	10/4

***稲わらのすき込み**

すき込み時期	稲刈り後、できるだけ早めにすき込む。
耕起方法	ロータリー耕では粗めに耕起する。プラウ耕が最適。
腐熟促進剤	ワーコム(1袋/10a)等。

***稲わら連用施用田での基肥窒素量**

すき込みの年数	基肥窒素量の目安
2~3年目まで	5~10%増肥
3~4年後	慣行施肥量にもどす
4~5年目以降	5~10%減肥

***乾燥・調製**

●玄米水分は「15%」を目標に仕上げ
●急激な乾燥は「胴割粒」を助長するので注意する。

~わら焼きはやめましょう~
★米産地としての印象悪化
★健康への悪影響
★交通障害・景観悪化
「青森県稲わらの有効利用の促進及び焼却防止に関する条例」
平成22年6月25日施行



トマト

***裂果対策**

裂果は最低気温が14℃以下になると多くなるので夜間はハウスを閉めて保温し、急激な灌水はしない。

***エスレル処理**

低温期の着色を進めるため、9月下旬以降に各花房段毎にエスレル10を散布し着色を推進させる。

散布時期	回数	10a散布量	1花房当たり葉量
9月下旬~10月上旬	300倍	10~15%	33~55cc

※白熟期になった花房に5~7日おきに散布

(2) 注意事項

●散布時、散布後2~3日は温度を30℃以上にしない。
●調整した薬剤はその日のうちに使いきる。
●濃度が濃い場合や散布量が多いと軟化玉が多くなる。



イモグサレセンチュウ

***イモグサレセンチュウの防除について**

センチュウの発生が確認されたほ場では、さまざまな防除方法を総合的に組み合わせて被害を軽減することが重要。

●栽培期間中、機械や長靴の洗浄の徹底

●植え付け前

(1) ほ場更新
未発生ほ場を確保する

(2) 種子更新

(3) 種子消毒
汚染されていない種子の利用

(4) 土壌消毒
ベンレートT水和剤20の1%粉衣(種子への進入遅延)

(5) ラクヒーMC散布(20~30kg/10a)

●田畑輪換(水稲2年以上の作付実施(センチュウ密度の低下による被害軽減))

***乾燥後、保管中の被害について**

乾燥終了後50日頃から被害が目立ち始める。
りん片の発根部から肌色に変色し、内部がスポンジ状に腐敗していく。被害の激しい球は、指で押すと容易にへこむ「球抜け」状態になる。